

アンケートによる「ゴミ問題」

日本共産党市議団では、市内の全戸を対象に市政に対するアンケートを行なっています。すでに市民の皆さんから回答が寄せられつつありますが、その中で市民の皆さんの関心が高いのがゴミ問題で、回答を頂いた約八割の方が、ゴミ問題の意見を記入しています。その中の特徴的な声をまとめてみました。

高いゴミ袋、「せめて半額に」

ゴミ問題の意見で一番多いのが袋代の高さです。「ものすごい不況です。袋の値段を家庭用も事業用も安くして」「値段が高い。一種の増税だ」「日本一高い。大きな金が市に入るはず。使途の明細を」などが代表的な意見です。

「値下げの主張は何度も聞くが、改善されない。(共産党の)『弱者の味方』のスローガンと一致しない」と、要求の切実さと党への期待が入り交じった、こうした傾向の意見は、他の項目でも見られる最近の特徴です。

「年金暮らしの老人には一束四百円、三百円はとても高い。せめて半額ぐらいになれば」と、袋代の高さは高齢者世帯を直撃しています。「袋代が高い」と、わずかな文字の回答の中にも、それがにじみ出ています。

「減量」の抜本的対策やリサイクル対策は

「過剰包装を変えなければゴミは減らない」「家電など価格にリサイクル費用を上乗せすべき」「国への働きかけを強く」「焼却・リサイクルなど、実態はどうなっているのか。『広報』で知らせるべき」など、「減量」の抜本対策、リサイクルに関する意見も寄せられています。

レジ袋でよかったゴミ捨てが、新たに買う有料袋となることによつて、その分自体が「減量と反する」という意見も幾つか見られました。

その他、さまざまな提案も寄せられています。

「減量」効果の評価あるが不法投棄に厳しい注文も

「ゴミを出すことは高価な出費だが、減らす工夫を促すうえで有料化はやむを得ない」「有料化はある程度理解できるが、その収入は何に使われているのか」と、有料化を消極的ではあるが「是」とする意見と、「大変なことと思つたが、町がきれいになり、ワースト1を返上したことが市民としてうれしい」「有料化は当たり前。多く出す人は負担すべきだ」と、積極的評価もあります。

反面、増えた不法投棄についての意見も多く、「町の汚れがひどくなった。ゴミが落ちていても拾わない。有料化だからだ」という町の美化に対する逆の評価や、アパートなどに見られる「袋」の放置や散乱など、市政のゴミ「改革」による新たな問題に、厳しい意見も寄せられています。

アンケートにご協力頂き有り難うございます。頂いたご意見をふまえて対策、政策を検討致しますが、皆さんの切実な要望としてあげられているゴミ袋の値下げは、ぜひ実現させたいと考えます。《中野あきと》

南平7丁目の浸水個所に 対策工事

ここ数年来、夏の台風シーズンの大雨などによる浸水が繰り返されていた南平7丁目地域で、今年と来年の2年にわたって U字溝の改良など対策工事が行なわれることになりました。

一昨年の大雨による水害時に、中野市議が現地を調査、住民の方からお話を伺い、担当課へ改善の要望を行なっていたものです。

この間講じられてきた土嚢の積み上げでの応急対策では不十分だっただけに、大雨のときの効果が期待されます。



昨年9月12日、大雨で床下浸水の被害を受けた南平7丁目地域(写真 中野)

草の根から

「今でさえ売り上げは半分、やっつけられないよ」「……イギリスで問題になっていたのに国は何をやったのか」……二頭目の狂牛病の発覚後に伺ったお肉屋さんの話。国の責任、安全管理のずさんさが根本から問われている。おりしも構造改革、規制緩和が花盛りの昨今、その危険性、危うさを示しているのではないかと。◆いま、日野市でも『行革』『安上がり』を理由に、こともあるうに子どもたちの命と健康をばくむ学校給食を、民間委託に切り替えようとしている。安全管理の面でも、手作りのおいしさの面でも、全国的に『理想的』だと言われている日野のすばらしい学校給食を。◆大量生産、大量消費、大量廃棄、安上がりと合理主義の二十世紀から、人間が大切にされる『ほんもの』と『手作り』の二十一世紀へ。日野の給食はこの時代にこそふさわしく、すばらしい中身をもったものではないか。◆今年度実施は断念の民営化、「来年度から二校で実施したい」(助役)とする市。「民間委託を許すかどうか」のまさに正念場。◆「署名にご協力下さい」「署名を集めて下さい」。多くの市民の皆さんの気持ちと力を集めて、子どもたちのために、すばらしい給食を守り充実させていきましょう。全力を尽くします。

中野あきと

小泉流にせもの

『三方一両損』

落語ではこんな話し

大工が落とした三両入りの財布を、左官が拾って返しにいったところ。ところがどちらも意地を張って受け取らず、大ゲンカ。相談された大岡越前守が一両を足して二両ずつ分けあたえて丸くおさめた。奉行がみずから一両損して裁いたところが、この話のミソです。

損をしない人たち

大岡越前守はみずから一両損して解決に当たったのに、小泉首相（政府）はまったくその気なしです。

「『一両損』に、国、製薬会社が入っていない」と国会でずばり追求したのは日本共産党の小池晃参院議員です。実際、国は「一両損」どころか、医療費の国庫負担率を八〇年の30%から九九年25%に下げています。

『損』をしないもう「一方」、製薬企業は政治団体をつくり、昨年だけで自民党に一億一千万円、小泉首相にも四百万円の献金をしています。

小池議員は迫りました。「国民には痛み、自民党には献金という『改革』では、国民は絶対に納得しない」と。

豊田地域、区画整理なんでも相談会のご案内

豊田南区画整理地域では、いま、仮換地の手続きや移転工事などが随時すすめられています。その中で「仮換地案に納得がいけないがどうすればよいのか」「移転補償協議にどう対処したらよいのか」「また、清算金はどうなるのか」など、さまざまな悩みや区画整理に対するご意見をお寄せ頂いたらという思いで、この程『区画整理何でも相談会』を催すことに致しました。

どんなささやかだと思っておられることでもかまいません。お気軽に足を運んで頂きご相談頂けたらとおもいます。

ぜひ、お越し下さい。

とき 12月16日 午後7時～9時まで
ところ 豊田下地区センター(豊田1丁目)

保険者

市町村国保は、高齢者医療の年齢 引き上げて、新たに六百万人がくみ入れられ財政がひどく悪くなる。

病院

診療に応じて受け取る診療報酬の引き下げ。

患者

病院の支払いがいまの五〜二十倍

小泉首相が説く「三方」とは「患者（国民）」「病院」、健康保険組合などの「保険者」だといいます。

どんな損なのか



南部医療用地の売却問題

市と話し合う
緊急の集い

市 部長

約束した話し合いを
一方的に拒否

「条件が整えば、十一月にも売却」という市の一方的な意向を受けて、「南部地域に病院をつくる会」では十一月二十日、高幡の福祉支援センターで、市と話し合う『緊急の集い』を計画、これに市の企画部長と主査が参加を約束していました。ところが直前になって突然出席を拒否。理由は、集案内の『会』のビラが「考えていたこととトーンが違ふ」とし、「相談して決めたこと、市長もこれは承知している」と一方的に『会』に伝えてきました。

高幡地区の住民も参加したこの日の集会では、「一方的な売却計画は白紙に戻し、用地の利用は市民・住民との話し合いのうえで決める」という緊急の市の申し入れを確認しました。

短 信

▽「カンダハルに米海兵隊」「タリバン崩壊寸前」。それでテロがなくなるのか。テロ根絶から逸脱した報復戦争、問われる「尻押し国」日本の役割。▽地下鉄サリンというテロ事件のとき、世論は上九一色村のオームのサテアンの壊滅ではなく、教祖と幹部を捕らえ「法の裁き」を受けさせることだった。「たたかひの目的は、テロ集団を告訴し、法の裁きのもとにおくことであります」という不破議長の指摘。泥沼化のアフガン情勢、世論の力で「理性と道理」にもとづく対応へのみちを。

▽街づくりのための公有地を売り払ってのマンション建設。保育施設、一切業者まかせの医療施設の上に一六〇戸という大規模なもので、地元の住環境悪化は誰が見ても避けられない。医療用地として確保されてきた公有地を売っての市政のこの所業。空いた口がふさがらない。▽出席して話し合う約束だった「病院をつくる会」の集會。「集會という約束ではなかった」とかなんだとかという市側のボイコットの言い分。形はともあれ参加しているのは南部地域の医療体制の改善を願って長年運動を続けてきた関係者と、話を聞きたいと参加した地元住民。こそこそと内緒ですすめた売却計画。「合わす顔がない」のは分かるが。